

虚子記念文学館投句特選句

・令和二年九月

稲畑汀子 選

秋風や窓の数だけ空のいろ

兵庫 武田奈々

(青少年)

旅の秋妻の遺愛の杖を曳き

新潟 安原 葉

青空に置き忘れたる宵の月

奈良 好川忠延

鬼灯を鳴らし濃くなる夕茜

兵庫 涌羅由美

打水に驚きの影翔ちにけり

兵庫 黒田千賀子

六甲の風をひと混ぜあきつ飛ぶ

兵庫 辻 桂湖

その次の次の空へと翺雲

兵庫 奥田好子

選考を急ぐ師にエール昼の虫

兵庫 岩水ひとみ

庭の水澄み恙なき師を思ふ

大阪 田邊育子

竹の春幼子一步二歩三步

兵庫 千家恵子

入選句・令和二年九月

蝦蟇微動だにせず秋の風	神奈川	平野孤舟	葉月くる便箋のいろ風のいろ	兵庫	三木雅子
秋晴れや虚子館の庭抱きしめる	兵庫	川村ひろみ	万葉の色づき初めし葉月かな	兵庫	山岸正子
見えたく詠みたく集ふ館の秋	兵庫	森岡喜恵子	朝夕に風うまれくる葉月かな	兵庫	大西美知子
子規の書に触れて葉月の展示室	兵庫	玉手のり子	豊満に句座をにぎはし椿の実	兵庫	金田八江子
小説の終はり知りたし長き夜	大阪	山下幸典	就中偲ばるる人椿の実	兵庫	柄川武子
自販機に音二つ落つ星月夜	大阪	八木 徹	あと少してふ思ひあり葉月かな	兵庫	山口弘子
椿子の優し面影露けしや	兵庫	内田泰代	秋桜や幼きものが見え隠れ	兵庫	不乱鬼
水音の涼しさに蘇る句を	大阪	岡西恵美子	久々の虚子館訪うて涼新た	大阪	石橋玲子
女郎花日色小さく弾かせて	兵庫	高野さち	渾渾と湧く虚子館の水澄めり	石川	村上秀吾
葉隠れの実のうひうひし今朝九月	兵庫	小柴智子	待宵や一本提げて友来る	大阪	河辺さち子
居ぬやうに居る翅の色草蜉蝣	兵庫	吉村玲子	秋の蚊の襲ってきたる雨の庭	兵庫	長安悦子
百日紅残んの彩を風が溶く	大阪	杉山千恵子	子規虚子の足跡灯す露館	大阪	徳永由起子
忌の近き何もかも露けき庭に	兵庫	西村正子	降り出してのうぜんかづらの朱を極む	兵庫	横山脩子
澄む水に鷺の一瞬狙ふもの	大阪	露口美穂子	俳磚の一字一字の露けしや	大阪	小井川和子
初秋を友と味はふ比叡山	兵庫	小川孝子	野分にも極楽学ぶ虚子の館	岡山	奥山登志行
鬼灯の真に隠るるつつましさ	兵庫	河野ひろみ	秋日傘濡らして心通はせる	兵庫	山之口倫子
虚子館を借り切り学ぶ露の秋	大阪	林 曜子	ゆくりなく芦屋に出逢い秋日傘	大阪	加藤あや
未明より行事次次放生会	大阪	西尾浩子	虫の音の光りて星の瞬きぬ	京都	杉森大介
放たれし命の水沫放生会	兵庫	中村恵美	龍淵に潜む箱根の森静か	千葉	玉井令子
待宵や堂島川に架かる橋	兵庫	山田佳乃	秋の海へ急ぐ流れや芦屋川	大阪	鶴岡言成
太陽の恵み極まる太き梨	鳥取	前田 千	山歩き手土産にする山葡萄	兵庫	岸田 健
とんぼうや子等の遊ばぬ青い空	兵庫	岸川佐江	憂ひの世句に癒されて子規まつる	兵庫	英賀美千代
爽やかに風雅を学ぶ文学館	兵庫	池田雅かず	虚子館の風の明るさ竹の春	兵庫	西村みどり
醬蔵並ぶ径や赤蜻蛉	兵庫	高橋純子	糸瓜忌を今日と思ひて風を聴く	兵庫	清瀬 環
爽やかや大きく早く漕ぐオール	兵庫	深尾真理子	ありし日の叡子師偲ぶ秋彼岸	兵庫	山本康子
虚子館に学ぶこころや涼新た	兵庫	藤井啓子	抜け道を昔へもどる竹の春	兵庫	二瓶美奈子
この指にとまれあきつの群に指す	兵庫	永沢達明	竹の春金明竹の匂ひ立つ	兵庫	田中節夫
南極で働く誇りサングラス	兵庫	小杉伸一路	虚子館に長居してをり萩の風	兵庫	岩鼻絹子

諷詠の庭ねんごろに松手入	兵庫	山西商平
瑠璃の宇宙水平に白く鳴一線	兵庫	安藤裕子
水澄みて湖底の遺跡現れり	兵庫	佐々木啓川
爽やかな空が招いてゐる外出	石川	辰巳葉流
海境に入日輝き秋の海	石川	辰巳昌彦
館の庭まほろばとして小鳥来る	鳥取	棕 誠一朗
コーランの祈りの彼方眉の月	東京	宮村土々
蝸や肌着に母の名を記す	兵庫	キートスばんじょうし
踏み入りて方向失せてゆく花野	兵庫	田村恵津子
母の忌や山萩紅き花つけぬ	埼玉	土井洋子
アルバムの整理進まぬ秋灯下	神奈川	金子三奈乃
籠りゐる暮しに客や花木権	神奈川	進藤剛至